

主催:一橋大学社会科学高等研究院(HIAS)都市空間・不動産解析研究センター、ソーシャル・データサイエンス研究科、木更津市

共催:麗澤大学国際総合研究機構、Location Mind、NTTタウンページ

後援: Japan Aviation Service

「都市」の未来をデザインする

一橋大学 「SDGs×データサイエンス2026 in 木更津」

一橋大学は、社会科学の研究総合大学として、日本における社会科学諸分野の研究を常にリードしてきました。現代では、学術研究の国際化が急速に進むとともに、社会的重要課題の解決に向けた大学の貢献が社会から強く求められています。このような背景を踏まえ、研究の一層の高度化と国際化を推進し、社会科学における世界水準の研究を実行するため、学長直轄(学長・中野聰)の組織として「一橋大学社会科学高等研究院」(Hitotsubashi Institute for Advanced Study: 略称HIAS)を設置し、学問的な発展だけでなく、社会への実践的な貢献を進めています。

一橋大学社会科学高等研究院(HIAS)に設置されている「**都市空間・不動産解析研究センター(CURES)**」と一橋大学データデザインプログラムは合同で、「SDGs×データサイエンス」として、ビッグデータを持つ民間企業と共に催していただき、自治体、地域の大学・高校および地域の持続可能性に関心を持つ方々を対象として、ワークショップを開催することいたしました。主催者は、公開型ワークショップを開催することを通じて、世界の第一線で活躍する研究者と地域の高校生・大学生・大学院生との交流を通じて、各地域の持続可能性、およびwell-being、幸福について、データに基づき議論を重ね、地域の未来をデザインしていくことに貢献できることを願っています。地域の未来を創造する多くの高校生、大学生、大学院生または教職員の方々、自治体関係者の参加を期待しています。

木更津市での開催について

「都市の未来をデザインする in 木更津」では、木更津市長から諮問された三つの重点テーマについて、データ分析、経済・都市理論、現地調査を踏まえた総合的な検討を行い、その成果を市長への政策提言として取りまとめます。本プロジェクトで提示される提案は、木更津市単独の将来像を描くにとどまらず、東京湾岸地域を含む首都圏全体、さらには日本の都市・地域政策の将来像に対しても示唆を与えることを目指しています。これらの成果は、国土交通省の後援の下、2026年1月13日に開催される一橋大学社会科学高等研究院主催の公開シンポジウム「都市の未来をデザインする」のパネルディスカッションにおいて報告される予定です。当日は、国土交通省および東京都の都市計画・都市整備を担う実務担当者をはじめ、産学官の関係者が一堂に会し、本プロジェクトで得られた知見を基に、今後の都市政策・地域連携・持続可能な都市構造のあり方について多角的な議論が行われます。本取り組みを通じて、木更津市を起点としつつも、広い視野から日本の都市の未来を構想する、実践的かつ先導的な提案が示されることが期待されています。

主要テーマ:

市長からの諮問:

テーマ1・首都圏の都市連携における“海陸空ネットワーク”の未来像～東京・川崎・木更津が共に支え合う「多中心型圏域」の構築～

テーマ2・金田地域を起点とした“次世代エリア開発”的方向性とは？～アクアライン着岸地のポテンシャルを最大限に引き出すまちづくり～魅力ある木更津の「まちの中心」をデザインする

テーマ3・木更津中心市街地の“再興とエリア価値の再構築”に必要な条件とは？～にぎわい・文化・暮らしが共存する都市空間への再デザイン～

企画趣旨:

本ワークショップでは、情報教育の基礎を超えた実践的なデータ分析スキルの習得を通じて、都市・地域の課題解決に挑戦します。高校で学ぶ情報科の基礎に加え、大学・産業界レベルの応用的データサイエンス技術(可視化・予測・意思決定支援等)を体験的に学びます。

参加者は、木更津市に関わる具体的な地域課題を対象に、「データによって地域の過去・現在・未来を描き出す」というプロジェクトに取り組みます。

特徴と価値:

本ワークショップの最大の特徴は、一橋大学の研究者・学生、先端企業、そして木更津市が三位一体となって連携・協働する実践的な取り組みである点にあります。参加者は、通常は公開されないモバイル空間統計やアメニティ情報、地域経済動態などの高度なビッグデータに一部アクセスし、実社会の課題に対してデータ駆動型でアプローチする経験を積むことができます。

また、政策立案におけるエビデンス活用(EBPM)や、行政・企業におけるデジタル・トランスフォーメーション(DX)の最前線に触れることができる貴重な機会でもあります。参加する高校生・大学生はチームを組み、地域課題に対する分析・検討を行い、最終的には自治体首長(市長)への政策提言という実践的アウトプットを経験します。

こうした取り組みは、参加者にとってAI・テクノロジー分野における高度専門人材へのステップアップのきっかけとなり、進路選択や将来のキャリア形成に資するものとなるでしょう。

期待される成果:

本ワークショップの成果として期待されるのは、まず、データに基づいた説得力ある政策提案の策定と、それを社会に伝えるためのプレゼンテーション能力の習得です。参加者は、木更津市が直面する具体的な地域課題に対して、実践的かつ創造的な視点から解決策を導き出すプロセスを経験します。さらに、高校生・大学生が中心となって、「スマート・ゲート都市 木更津」という未来ビジョンの構築に取り組むことで、都市のあり方や公共政策に対する理解を深め、より俯瞰的な思考力を養います。

本プログラムは、単なる学びの場にとどまらず、次世代のAI・テクノロジー人材を育成し、同じ志を持つ仲間とのネットワークを形成する貴重な機会ともなります。ここで培われる知識・スキル・人間関係は、将来にわたって社会に貢献するための礎となることでしょう。

本ワークショップは、日本においても極めて貴重な機会となる、最先端のビッグデータ分析を実践的に体験できる場を提供します。舞台となる木更津市は、「海と首都圏をつなぐ未来都市」として大きな可能性を秘めており、参加者はその地において、地域が直面する複雑な課題と真摯に向き合い、データの力を活用して持続可能な未来像を描き出すことに挑戦します。

この取り組みを通じて、参加者一人ひとりが「**地域の未来をデザインする担い手**」としての自覚と力を身につけ、実社会とつながる実感を得ることが期待されます。本ワークショップが、新しい価値の創造や次世代人材の育成に寄与し、未来につながる確かな一歩となることを、私たちは心より願っています。

【ワークショップ概要】

- 日時:2026年1月5日～1月6日
- 場所:木更津市役所 中央公民館 多目的ホール(アクア木更津B館3階)
- 定員:60名程度(木更津高校の生徒+一橋大学データデザインプログラムおよびSDSの学生)
- オーガナイザー+ワークショップチームコーディネイター

*清水千弘: 一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科教授

*鷲田祐一: 一橋大学大学院経営管理研究科教授、データデザインプログラム長

*徐 文臻: 一橋大学大学院経営管理研究科准教授

*キム ホンジク: 一橋大学社会科学高等研究院 専任講師

*柴崎亮介: 麗澤大学副学長・工学部長、元東京大学空間情報科学研究センター教授

*宗 健: 麗澤大学工学部教授、大東建託賃貸未来研究所フェロー

*萩野 覚: 麗澤大学経済学部教授、国際統計開発研究センター長、内閣府経済社会総合研究所

*桑原 進: 麗澤大学経済学部教授、well-being 研究センター長、内閣府経済社会総合研究所

オーガナイザーの願い

都市の未来を創造していく主役は、自分の街に思いのある人たちです。そして、未来を創っていくためには、現役世代だけでは限界があり、現在の中学生・高校生・大学生など、若い世代へと引き継がれていかなければなりません。私が研究者、そして教育者が、研究を通じて培ってきた知識・技量を地域の方々、若い世代へと伝えさせていただき、参加者がよりよき地域の未来をデザイン・創造していく行動の変容へつながっていくことを期待しています。

1月5日(月) 9:30～17:00

場所: 木更津市役所 中央公民館 多目的ホール(アクア木更津B館3階)

9:30 主催者挨拶: 清水千弘 (一橋大学ソーシャル・データサイエンス研究科 教授)

9:40～10:00 ワークショップの進め方の説明: ワールドカフェ形式

10:00～12:00 グループワーク

12:00～13:00 ランチ

13:00～17:00 グループワーク

1月6日(火) 9:00～16:00

場所: 木更津市役所 中央公民館 多目的ホール(アクア木更津B館3階)

9:00 集合

9:00～12:00 グループワークの取りまとめ及び発表報告会に向けての準備

12:00～13:00 ランチ

13:00～14:00 グループワークの取りまとめ及び発表報告会に向けての準備

14:00～15:30 発表報告会 (6グループ、各グループ15分発表)

15:30～16:00 市長および先生方の総評

16:00 解散

【市長提案】

テーマ1

首都圏の都市連携における“海陸空ネットワーク”的未来像 ～東京・川崎・木更津が共に支え合う「多中心型圏域」の構築～

● 背景と意義

首都圏は今、災害リスクの増加、慢性的な交通・物流の混雑、過密都市構造の限界に直面しています。その中で、東京湾を挟んだ“対岸のまち同士”が連携し、新たな都市ネットワークを構築していくことは、レジリエンス強化・機能分散・経済再編の重要な柱となります。

特に木更津は、東京・羽田空港・川崎といった機能集積地とつながるハブとしての可能性を持ち、「支える」「分担する」「代替する」新たなポジションを築く素地があります。

● 討議の問い合わせ

木更津・川崎・東京の三都市が連携することで、首都圏にどのような新しい価値を生み出せるか？

羽田空港や川崎港にとって、木更津が連携することでどのような“メリット”があるか？（災害時の代替性／物流や観光の分散拠点／土地・空間の余裕を活かした社会実験拠点など）

東京湾を横断する“次世代型の海陸空ネットワーク”を、どう構想・設計すべきか？

対岸都市から見て、木更津はどんな“補完拠点”となるべきか？

モビリティの位置づけ

LRT(羽田空港～金田間) アクアライン6車線化により可能となるトンネル部道路下空間を活用した都市間軽軌道。羽田～木更津間を定時・定速で結ぶインフラとして、観光・通勤・災害対応のシンボル的存在となる。

木更津空港(構想) 羽田の補完空港として、防災・国際交流・観光・ドローン物流のハブ機能を持たせる構想。

海上モビリティ(補完的) 羽田・横浜・お台場などとの連絡・観光航路を想定。日常的利用ではなく、災害時や観光・社会実験での活用。

バス・MaaS連携 都内・湾岸エリアとシームレスに接続するスマートモビリティ政策の一環として展開。

テーマ2

金田地域を起点とした“次世代エリア開発”的方向性とは？

～アクアライン着岸地のポテンシャルを最大限に引き出すまちづくり～

● 背景と意義

東京湾アクアラインの千葉側の玄関口として、金田地域は今後の「首都圏のゲートウェイ」として注目されています。高速道路、商業地、港湾、防災拠点、再エネ立地などの複合ポテンシャルを活かした未来志向のエリア像の創出が求められています。

● 討議の問い合わせ

金田を首都圏と千葉県の“結節点”として、どんなエリア価値をつくれるか？
アクアラインという都市間高速接続の特性を活かす“唯一無二の街”とは？
首都圏側(東京・川崎・羽田)にとって、この拠点が機能することでどのようなメリットがあるか？
再エネ・物流・交流・防災・観光などを統合した“持続可能な街の姿”とは？

モビリティの位置づけ

LRT(羽田空港～金田間) 羽田直結の都市軌道により、金田が首都圏アクセスの最前線に。人流・観光・ビジネスのハブとして期待。
広域バス・EVバス 湾岸エリア・館山道方面との接続性を高める。
歩行者回遊性・駅型施設の整備 パークアンドライド、MaaSを組み合わせたスマートエリア開発と一体に検討。

テーマ3

木更津中心市街地の“再興とエリア価値の再構築”に必要な条件とは？
～にぎわい・文化・暮らしが共存する都市空間への再デザイン～

● 背景と意義

木更津駅周辺は、かつての繁華街から変遷しつつある一方、再び都市機能の集積・再編が求められるタイミングにあります。駅、港、商業、行政、観光、教育の結節点として新たな都市価値をどう設計するかが問われています。

● 討議の問い合わせ

中心市街地を「再興」し、「住みたい・訪れたい」場所にするには何が必要か？
“居心地の良さ”や“都市文化の継承”をいかに空間として表現するか？
再び駅前が拠点として機能するには、どんな施設やサービスが必要か？(公共・民間含む)
周辺地域や首都圏からの流入を促すには、どのような都市体験が鍵となるか？

モビリティの位置づけ

駅前再整備に合わせたバス／MaaS導入 市内外からのアクセス拠点化を推進し、公共交通との親和性を高める。
自転車／歩行者導線の再設計 日常生活と観光を両立させるモビリティ空間の再編。
木更津空港(構想)との接続性も視野に 地域拠点の一つとして、観光・国際交流への波及効果を模索。